

令和元年度微小粒子状物質合同調査報告書の作成（案）

1 報告書の構成

- ・第4章の「高濃度事象の詳細解析」は、関東甲信静の複数の地域でPM2.5日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した事象の中から、原則4事例を選定し、その発生状況に応じて事象数を削減する。

2 執筆分担

本 編		R1		H30	H29	H28
		主担当	副担当			
1	はじめに	栃木県	東京都	長野県	群馬県	茨城県
2	調査方法	栃木県	東京都	長野県	群馬県	茨城県
3 各季節の概況	各季節の気象概況	相模原市	静岡市	相模原市	相模原市	相模原市
	3.1 春季	東京都	浜松市	東京都	東京都	東京都
	3.2 夏季	埼玉県	静岡県	埼玉県	埼玉県	埼玉県
	3.3 秋季	長野県	東京都	川崎市	長野県	長野県
	3.4 冬季	静岡県	埼玉県	静岡県	静岡県	静岡県
	3.5 四季の比較	浜松市	長野県	浜松市	茨城県	埼玉県
4 高濃度発生状況	4.1 高濃度日出現状況	茨城県	群馬県	茨城県	神奈川県	群馬県
	4.2 事例1	千葉市	茨城県	横浜市	栃木県	横浜市
	4.3 事例2	群馬県	千葉市	栃木県	横浜市	神奈川県
	事例3	神奈川県	川崎市	—	川崎市	千葉市
	事例4	—	—	—	千葉市	川崎市
	4.4 高濃度事象のまとめ	川崎市	神奈川県	千葉市	神奈川県	栃木県
5	発生源寄与の推定	千葉県 山梨県 さいたま市		さいたま市 山梨県 千葉県	山梨県 千葉県 さいたま市	千葉県 山梨県 さいたま市
6 経年変化	6.1 質量濃度	—	—	神奈川県	—	—
	6.2 成分組成	—		群馬県・埼玉県	—	—
7	総括	栃木県	東京都	長野県	群馬県	茨城県

資料編		R1	H30	H29	H28
1	試料採取要領	栃木県	長野県	群馬県	茨城県
2	測定方法及び検出下限・定量下限	静岡市	静岡市	静岡市	静岡市
3	調査地点の概況	栃木県	長野県	群馬県	茨城県
4	気象要素の測定地点	相模原市	相模原市	相模原市	—
5	高濃度事象解析の対象地点	茨城県	茨城県	群馬県	群馬県
6	精度管理結果	長野県	群馬県	茨城県	浜松市
7	調査結果の発表及び投稿一覧	栃木県	長野県	群馬県	茨城県

3 報告書作成上の検討事項

(1) 解析対象地点の選定（前年度と同様の方法，別冊参照）

- ・成分調査結果解析対象地点及び高濃度事象詳細解析対象地点は、ともに一般局とする。
- ・成分調査結果解析対象地点は、都県分は全地点、政令市分は1地点選定する。
- ・高濃度事象詳細解析対象地点は、以下の方法で選定する。
 - ① 成分分析調査地点を含む5～20地点とする。
 - ② 極端な空間的偏りがないようにする。
 - ③ 政令市については、各県で取りまとめる。

(2) 二重測定の判定基準を超過した測定値の扱い

- ・平成29年度PM2.5成分測定結果の環境省への報告において、二重測定の判定基準を超過した測定値は、欠測とせずに、フラグ付きで測定値をそのまま報告することになった。
- ・平成29年度報告書作成にあたり、当該フラグ付き測定値の扱い（有効、欠測）について、原則としてフラグ付のまま有効とするとのことであった。

【事務局案】「平成30年度報告書についても、前年度と同様としたい」

(3) 高濃度事象詳細解析対象期間の決定スケジュール

【事務局案】「4.1 高濃度日出現状況」担当自治体及び幹事県で作成→各自治体にメールで通知して確認の上、決定」

(4) 「各季節の概況」における調査期間の変更について（長野県）

当該調査はコア期間（7日間）を対象に、解析を行っていたが、支障がなければ、5章（発生源寄与の推定）と同様に、全期間（14日間）を対象として、解析してはどうか。

【事務局案】「支障がなければ上記案のとおりとしたい」

(5) 執筆要領の変更について（別添資料参照）（さいたま市）

- ・「%」についてはTimes New Romanを使用する。
- ・マイクロ（ μ ）はマイクロと入力し、変換した“ μ ”をTimes New Romanにしたものを使用する。

【事務局案】「支障がなければ上記案のとおりとしたい」

(6) 目標検出下限値の達成状況の活用について（埼玉県）

- ・今年5月に環境省から出された目標下限値の達成状況と、今年度本調査の解析で取り扱うデータを比較して精度に関する状況を共有し、場合によって解析に反映させることも考慮してはどうか。

【事務局案】「支障がなければ上記案のとおりとしたい」

4 執筆要領

(1) 基本的に従前どおりとする。

(2) 原則としてMicrosoft Wordで執筆する。

(3) ページ設定（A4用紙）

- ・文字数：40文字40行
- ・余白：上下左右とも30mm

(4) フォント

- ・ 章の表題 (12 ポイント MS ゴシック)
- ・ 節・項の表題(11 ポイント MS ゴシック)
- ・ 本文 (10.5 ポイント、MS 明朝、ただし英数字は Times New Roman)
- ・ 図表中のフォント (MSP ゴシック、印刷時に文字が小さくなりすぎないように留意)
- ・ 「%」については Times New Roman を使用する。
- ・ マイクロ (μ) はマイクロと入力し、変換した“ μ ”を Times New Roman にしたものを使用する。

(5) 図表番号

章-節-通し番号の 3 桁で表記する。(例：図 4-1-1)

(6) 日付の表記

本文中の年(暦年及び年度)は和暦、月日は「〇月〇日」と表記する。ただし、図表中の年月日は必要に応じて変更可能とする(例：〇月〇日→〇/〇)。

(7) その他

- ・ 定義が必要な用語については、議論の上で、原則として統一の表記を使用する。
- ・ カラー原稿で可
- ・ カッコは全角を基本とする。(カッコ)
- ・ 数値と単位(%は除く)の間に半角スペースを入れる。(例：35 ng/m³)
- ・ 引用文献は、「引用文献¹⁾」のように表記する。
- ・ NMHC のグラフは[ppmC]単位で表記する。[0.1ppmC]ではない。
- ・ グラフのプロットは小さすぎないよう工夫する。

5 データ提供及び取扱い

項目	内容	備考
データ提供 依頼	事務局から各自治体の行政部門大気環境担当課長宛てに依頼文を送付する。(資料 4 参照)	依頼時期 6 月下旬
提供 1	・ 大気常時監視測定データ (様式 1) ・ PM2.5 日平均値 (様式 2)	提供期限 7 月中旬
提供 2	・ 高濃度事象の詳細解析に係る大気常時監視測定データ (様式 3)	提供期限 (8 月下旬)
提供方法	専用ホームページへアップロードする。 URL: http://kanto-spm.org/wp-login.php ID : municipality、PW : spmkanto (アップロードできない場合は事務局へメールする。 メール送信先 : kankyo@pref.tochigi.lg.jp)	アップロード方法 (資料 5 参照)
執筆担当者 へのデータ 配信	ホームページからダウンロードする。 (ダウンロードできない場合は事務局へ連絡し、事務局がメールする。)	データは会員間の内部データとし、取扱いに注意する。
解析結果中 間報告提出	9 月中旬 (第 2 回会議前)	原稿提出方法はデータ提供と同様
初稿提出	12 月上旬 (第 3 回会議前)	